

8701 おれの名前は清村隆介。職業は・・・

おれの名前は清村隆介。職業は・・・ちょっと一言では説明しにくい。以前はフリーのルポライターだった。そのころの仲間に、北崎兵吉という男がいて、いまは売れない小説を書いている。

かれはときどき横浜にあるおれの事務所へ遊びに来る。「仕事の息抜きのためだ」と本人はいつているが、たぶん小説の材料に窮して、おれのところへネタを探しに来ているのだらう。昔から才能のない男なのだ。

おれがルポライターをやめて、この横浜へやって来た理由は、くだくだしくなるから省く。強いて聞かれたら・・・

海の見えるところで暮らしたかったからだ。
とだけ答えない。

長部 出雄：ハードボイルド志願

[許容訳例]

My name is Kiyomura Ryusuke. My occupation ... is difficult to describe in a word or two, but I used to be a free-lance journalist. Among my fellow-journalists, there was a man called Kitazaki Heikichi, who now writes novels that don't sell.

He sometimes comes to see me at my office in Yokohama. He says that he comes for a rest from work, but I think he is probably hard up for material for his novels and comes to look for topics. He never did have much talent.

I won't give a long-winded explanation of why I quit journalism and came here to Yokohama. If pressed, I just say, "I wanted to live in a place where I could see the sea."

[翻訳例]

My name is Kiyomura Ryusuke. My occupation? Hard to describe in a few words. I used to be a free-lance investigative journalist, though. My colleagues in those days included a man called Kitazaki Heikichi, who is now an unsuccessful novelist.

He sometimes drops in to see me at my office in Yokohama. It makes a break from work, he says; but I suspect he's hard up for stuff to put in his books and is there to pick my brains. He never did have much talent.

I'll omit the reasons why I quit journalism and came here to Yokohama, since it would take too long. If pressed, I simply reply, "I wanted to live in a place with a view of the sea."

■おれの名前は清村隆介。(8701)

★「おれの名前は清村隆介」は My name is Kiyomura Ryusuke.です。I am...は「私が～なんです」という場合で「～は私です」とまぎらわしいので普通使いません。もちろん、ここで

I'm called～も好ましくありません。

■職業は・・・ちょっと一言では説明しにくい。(8701)

★「職業は・・・」は「おれの職業は・・・」ですから My occupation とか My job とか My work とかでしょう。task は My daily task is to…のように「割り当てられた仕事」とか「課題」という意味で、「職業」には使えません。

★「ちょっと一言では」は「一語では」(in only one word)ではなく「簡単には」という意味です。したがって「一」にこだわると妙な英語になってしまいます。ここでは in only a few words; in a word or two; briefly などの方がいいでしょう。なお、only in one word は英語として駄目です。in only one word は英語としては正しいですが、ここでは意味的に使えません。

★「説明しにくい」は(be) difficult [hard] to describe です。この describe の代わりに explain は間違いではありませんが、explain は事情・立場などの説明に用いるのが普通で、好ましくありません。

●文構造

「職業は・・・ちょっと一言では説明しにくい」は、日本文と同様に My occupation を主語にして、・・・をはさんで述語動詞を続けても構いませんが、「職業は?・・・説明しにくい」と疑問符を付けて処理の方が英語的です。

■以前はフリーのルポライターだった。(8701)

★「以前は・・・であった」は I used to…のほかに、Formerly I was…とか、At one time I was…も使えます。「以前は」の中には、表には出ていませんが「今はちがうが」というニュアンスが含まれています。したがって、英語でも「今はちがうが」を表に出さないで裏に含ませなければなりません。それには I used to…が最適です。なお、I would be…は‘(回想的)過去の習慣’なので、ここでは使えません。

★「フリーのルポライター」の「フリーの」は、英語の free-lance (フリーランス) を短縮したものです。

★「ルポライター」はカタカナですがフランス語と英語を組み合わせた造語日本語で英語にはありませんから「ジャーナリスト」くらいに改めなければなりません。a free-lance journalist; an investigating journalist; a feature writer; a reporter; a documentary writer などが可能です。

■そのころの仲間に、北崎兵吉という男がいて、いまは売れない小説を書いている。(8701)

★「そのころの仲間に」は「そのころの仲間の中に」ということですから Among my former colleagues [fellow journalists]です。former の代わりに in these days; at that time などを使うのでもいいでしょう。なお、過去時制を使うのですから former とか in those days; at one time などは強いて使わなくてもいいかもしれません。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(北崎兵吉という男)

「北崎兵吉という男」は、英語的には「北崎兵吉と呼ばれる男・北崎兵吉と呼ばれる名前の男」ということですから、英語では「名詞(a man)＋関係詞節((who was) called Kitazaki

Heikichi/ whose name was Kitazaki Heikichi)」となります。

●文構造（仲間に～という男がいた）

「そのころの仲間に～という男がいた」は Among my former colleagues there was a man called～。でいいのですが、日本文と等価的なニュアンスをもつ英文にするのなら My colleagues at that time included a man called …という書き方が最適です。

★「いまは」は now です。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（売れない小説）

「売れない小説」は「連体修飾節（売れない）＋不定代名詞的体言（小説）」ですから、英語では「名詞(novels)＋関係詞節(that don't sell (well))」です。なお、「売れない～」は日常的な「通時的な」事柄を述べているので現在時制です。

★「小説を書いている」は、ここでは「現在の職業」を述べているのですから現在時制で He writes novels です。「今小説を書いている」(he is now writing a novel)と区別します。

●[て]（北崎兵吉という男がいて、いまは売れない小説を書いている）

「北崎兵吉という男がいて、いまは売れない小説を書いている」の[て]は、[て、そして]と補えるので and も使えますが、ここは追加説明のようなので関係代名詞を使って a man called Kitazaki Heikichi, who now writes novels that don't sell (well)とします。well はあってもいいですが、どちらかと言うとない方がいいと思います。それから、ここは a man called Kitazaki Heikichi, who is now an unsuccessful novelist という言い方もできます。これを逆に和訳するとすれば「売れない小説を書いている」ということになると思います。

■かれはときどき横浜にあるおれの事務所へ遊びに来る。(8701)

★「横浜にあるおれの事務所」は my office in Yokohama です。なお、「横浜にあるおれの事務所」は「連体修飾節（横浜にある）＋特定体言（おれの事務所）」ですから、英語では「特定名詞(my office)＋関係詞節(, which is in Yokohama)」なのですが、こうすると「おれの事務所、(ついでに言うておくが) 横浜にあるんだがね、・・・」という感じになってしまいます。避けるべきです。

◆「限定詞付き先行詞＋関係代名詞」

「横浜にある俺の事務所」を、関係詞を使って書く場合、my [the] office which is in Yokohama と「コンマなし＋関係代名詞」にすると、「すでにあなたの知っているいくつかの事務所のうちの横浜にある事務所」となってしまいます。コンマがあれば「うちの事務所、それは横浜にあるんだが・・・」となります。これは普段はあまり問題にならないのですが、たとえば、His house which he bought last year has a large garden.は、普通、「彼が昨年買った家には大きな庭がある」と訳されますが、この文は、彼がすでにいくつか家を持っていることが前提で、その真意は「すでにあなたの知っているいくつかの彼の家のうち彼が昨年買った家には大きな庭がある」であって、もし彼が始めて買った家のことを言うのなら His house, which he bought last year, has a large garden.としなければなりません。普通の人の日常を考えると、上の「コンマなし＋関係代名詞」の文は非文に近いのです。こういう細か

い文の背景に関しては、大昔に Maichael Swan: *Practical English Usage* (Oxford) で読んだ記憶があります。

★「かれはときどき～に遊びに来る」は He sometimes drops in [comes] to see me at ～ぐらいです。ここでは come より drop in at ～の方が「ぶらっと(たいした目的もなく)やって来る」という感じが出ていいと思います。

■「仕事の息抜きのためだ」と本人はいつているが、たぶん小説の材料に窮して、おれのところへネタを探しに来ているのだろう。(8701)

★「仕事の息抜き」は、前後の文脈 [売れない小説家] から判断して「ひと休み」(take a rest) ではなさそうです。「ひと休み」は、まだ続きの作業[仕事]をしなければなりません。この「仕事の息抜き」は、休むのではなくて「仕事から一時離れること」のようです。したがって、「仕事の息抜きのためだ」は to take a break from work がいいでしょう。他は“I’ve come for a break.”も可能です。ただ、I’ve come here to take a rest.は「ぐったり休む」の感じです。

★「たぶん(・・・して)・・・だろう」は I suspect he is...が一番英語らしいかもしれませんが、I think he probably is...とか、あるいは in all probability he is...という書き方もあります。

★「小説の材料」は material for his novels [books] とか、stuff to put in books [novels] です。なお、建築資材のようにいろいろな種類がある場合は materials と複数にしているのですが、「小説の材料」ははっきり識別できるような種類があるわけではないので material とします。なお、下の「ネタ」に material を使うなら、ここは stuff を使う方がいいでしょう。

★「小説の材料に窮して」は「何を書いてよいかわからなくて」という意味ではなく、「小説[本]にするのに向いた材料が見つからなくて[に困って]」ということです。したがって「～に窮して」は be short of [hard up for] ～ぐらいです。なお、be at a loss for～は「次にやるべきことがわからない」という意味で、ここでは使えません。

★「ネタを探しに」は、‘自分の話をいろいろ聞いて何かアイディアなりヒントを得ようとして’という感じでしょうから、ちょっと意識になりますが、to pick my brains という表現が使えます。他には come for material とか to look [search] for material などでもいいでしょう。なお、topics は「話題」という感じで「小説のネタ」には弱いと思います。

★「(ネタ探しに) 来ている」は is there to look [search] for material です。日本語の「・・・している」は微妙です。「来る」(動作) に比重がある場合には「いつも来る」(習慣) ことを表し、その場合、英語では「現在時制」ですが、「いる」(状態) に比重がある場合には「現在いる」ことですから is there です。

■昔から才能のない男なのだ。(8701)

★「昔から才能のない男なのだ」は「昔から才能のない男だった(今もそうだ)」という意味にしなければなりません。こういう場合によく使う言い方は He always was an untalented fellow.です。He always was...には「昔からずっと・・・だった(がいまもそうだ)」という感じで「どうしようもない奴だ」というニュアンスも少し入って来ます。他には、He has never

had much talent.とか、あるいは talent の代わりに ability を使うと He never did have much ability of his own.となります。(never を前置するのは強調のためです。e. g. To the very end, she never did let on. どうしても彼女は口を割らなかった。) なお、現在完了を使う場合には never とか always を加えないと「昔から(ずっと)」の意味になりません。たとえば、always を入れないと He has been an untalented fellow.は「昔から (ずっと)」という意味にはなりません。

■おれがルポライターをやめて、この横浜へやって来た理由は、くだくだしくなるから省く。(8701)

★「やめる」は quit ですが、quit の代わりに gave up も可能です。また、引退したのであるなら resign (from being a journalist)と言うことも出来ます。

● [て (そして)] (動作順次) (おれがルポライターをやめて、・・・)

「おれがルポライターをやめ [て]、この横浜へやって来た理由は・・・」の [て] は、ここでは「動作順次」なので and を使います。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(おれがルポライターをやめて、この横浜へやって来た理由)

「おれがルポライターをやめて、この横浜へやって来た理由」は「連体修飾節(おれがルポライターをやめて、この横浜へやって来た)＋不定代名詞的体言(理由)」ですから、英語では「名詞(the reasons/ the explanation of)＋関係詞節(why I quit journalism and I came here to Yokohama)」となります。

★「くだくだしくなるから」は「くだくだ理由を説明したくないから」と考えて I won't give a long-winded explanation of why...でもいいですが、日本語のニュアンスは「はじめたら時間がかかるだろうから」ということです。したがって since [as] it would be tedious [would take too long]がいいと思います。

★「(・・・理由は) 省く」は I'll omit the reasons [the explanation of] why...とか I won't explain why...などです。

■強いて聞かれたら・・・海の見えるところで暮らしたかったからだ。とだけ答えたい。(8701)

★「強いて聞かれたら」は「強制されたら」と考えて If (I am) pressed (for answer)とか When I am pressed などでしょう。なお、if forced to say も可能ですが、ちょっと強すぎるので、使わない方がいいでしょう。それに say を使う場合は何か続く言葉が必要になります。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(海の見えるところ)

「海の見えるところ」は「海が見えるところ→海を見ることができるところ」で、「連体修飾節(海をみることができるところ)＋不定代名詞的体言(ところ)」ですから、英語では「名詞(a place)＋関係詞節(where I could see the sea)」です。ただ、「海の見えるところ」とは、「海の景観をともなったところ・海を見晴らせるところ」ということですから、a place where I could see the sea は a place with(=having) a view of the sea と句に変えて書くこともできま

す.

●文中の直接話法

「海の見えるところで暮したかったからだ」は、引用符は付いていませんが、改行して終止符を打っているので直接話法ということになります。その場合、「・・・から」は無視して、次の「・・・とだけ答えたい」を伝達動詞として “I wanted to live in a place where I could see the sea.”とか “I wanted to live in a place with view of the sea.”と直接話法にすることになります。

★「・・・とだけ答えたい」は「・・・だけ答える」として I simply say とか I [just] say ですが、前が If pressed(for answer)でしたら、答えを強いられているのですから I simply answer [reply]となります。